第５０回　宇部市廃棄物減量等推進審議会議事録

・日時　　平成 27 年 2 月 18 日（水）　14 時から 16 時

・場所　　宇部市ときわ湖水ホール　ミーティングルーム

・出席委員

（会長）	関　根　雅　彦	（副会長）	城　田　久　岳
	木　下　　昇		渡　壁　正　英
	前　原　佳　子		足 立 美 智 子
	真　鍋　恭　子		宮　本　輝　男
	竹　中　敏　惠		甲　斐　裕　紀
	河　村　竜　太		茂　山　　守
	岩　本　輝　行		森　田　律　子
	井　関　祐　子		

・欠席委員

鈴　木　春　菜	千 々 松 智 恵
稲　沢　満　義	

・事務局

市民環境部長	白　石　光　芳
市民環境部次長	石　部　　隆
市民環境部参事	師　井　康　文
廃棄物対策課長	秋　田　浩　二
環境保全センター施設課長	黒　瀬　寛　文
廃棄物対策課長補佐	本　多　光　代
環境保全センター施設課長補佐	小　田　周　志
廃棄物対策課資源循環推進係長	上 田 康 次 郎
廃棄物対策課資源循環推進係主任	平 山 加 代 子
廃棄物対策課資源循環推進係主任	安　達　佳　二

・資料

１　生ごみ・草木リサイクル実証事業報告

２　一般廃棄物の減量化による経費面、環境面への影響に関する研究

・次第・議事録

１　市民環境部長あいさつ

２　会長あいさつ

３　議題

（1）生ごみ・草木のリサイクル実証事業等について

（2）ごみの減量化に関する山口大学との共同研究について

（3）その他

会長	本日の議題は、「生ごみ・草木のリサイクル実証事業について」と、「ごみの減量化に関する山口大学との共同研究」についてです。この２つについて続けて事務局から説明をお願いします。
事務局	審議会資料「生ごみ・草木リサイクル実証事業について」に基づき説明。 【概要】生ごみリサイクル実証事業 新たなリサイクルシステムを検討することを目的に、燃やせるごみの中でも特に水分量が多い生ごみのうち、家庭から出る生ごみについて、飼料化リサイクルの可能性を検証。 （実施期間）平成２５年８月２日～１１月２９日 毎週月・水・金曜日に収集（延べ収集日数５２日） （実施場所）厚南１１区際波台自治会 （世帯数）　７３０世帯 ・生ごみの排出量　総排出量　１９，２８７ｋｇ 一回の平均収集量　３７１ｋｇ／回 １人１日当たりの排出量　約１００ｇ ・再生飼料の品質 成分的には問題なく家畜に給与可能。腐敗による毒素等の影響も問題ない。 ○全市域で実施した場合の経費試算 ・収集運搬経費…生ごみ専用の収集運搬増により車両、人員の確保が必要 ・飼料化リサイクル処理経費…全市域で実施した場合の想定排出量 ６，２８４ｔ／年 想定処理経費１８８，５２０，０００円／年 （事業系生ごみ処理単価からの単純試算） ・焼却場での灯油削減効果…本事業の分析データのみでは試算が困難な為、平成２６年度、山口大学と共同研究を実施 ・電気売払収入の影響…３，６０１，１８５円／年　減収見込み 【概要】草木リサイクル実証事業 新たなリサイクルシステムを検討することを目的に、燃やせるごみの中でも特に水分量が多い草木を対象に民間事業者による継続的なリサイクル処理の可能性を検証。 （対象とした草木）自治会清掃で排出される草木 （実施期間）平成２５年５月上旬～６月下旬、平成２５年９月下旬～１１月初旬 ・自治会が指定する集積場所から民間事業者のリサイクル施設へ搬入 ・チップ化処理後、バイオマス燃料として発電施設で再利用 ○実証事業の結果 ・収集運搬経費…リサイクル施設が遠い為、平均収集量が約１ｔ／日減少 焼却処理の場合　９３１，０００円 リサイクル処理の場合　１，２９２，０００円 →３６１，０００円の増 ・リサイクル処理…品質的に問題がないことを確認

※６月上旬に民間事業者が草木のリサイクル事業を急きょ廃止した為、
継続不能になり残りの期間は重量を記入の上、焼却場に搬入

・処理経費…リサイクル処理単価３５，７００円／ｔで平成２３年度焼却処理原価
１８，７９１円／ｔと比べ約１．９倍
今回収集した全ての草木で試算すると　７，６０７，６７０円

・今後の展望…市内にリサイクル処理を実施する業者が不在の為、本格実施は困難であり、実施する場合は新たなシステムの検討が必要。また、草木の焼却量が削減された場合の焼却場における処理経費の削減効果等検討する必要がある。

審議会資料「一般廃棄物の減量化による経費面、環境への影響に関する研究」
に基づき説明

【概要】宇部市は生ごみを減らすために段ボールコンポストや水切りを推奨しているが、実際どれ位、補助燃料が減らせるかについての試算。
ただし、今日一日搬入されたごみの組成が何であるかは、不明の為、あくまで概算データによる。

（助燃料使用量に対するごみ質の寄与）

助燃比の決定要因別の稼働日集計結果

	ごみ質	他の要因あり
稼働日数[日]	379（58%）	280（42%）
助燃料使用量[kl]	261（33%）	541（67%）
焼却量[t]	32032（58%）	22937（42%）

・助燃料使用量がごみ質以外の他の要因にも強く影響。また、稼働日あたりの平均焼却量は、ほぼ等しいことからごみ質による助燃料使用量は全体の約６割となる。

（家庭系厨芥類の削減による助燃料節減効果）

厨芥類を３％削減した場合、平均助燃比は１．７８ℓ／ｔ減ることになるので、これに平成２５年度の処理量で計算すると助燃料は年間で９９．８ｋｌ、約１００ｔ節減できる。

（家庭系厨芥類の水切りによる助燃料節減効果）

厨芥類の含水率を３％削減した場合、平均助燃比は１．２６ℓ／ｔ減ることになるので、これに平成２５年度の処理量で計算すると助燃料は年間で７０．７ｋｌ、約７１ｔ節減できる。

（まとめ）

パーセンテージで言えば、水切りを行うよりは厨芥類を減らした方が助燃料を減らすことができるという結果である。ただ、段ボールコンポストをするにもお金がかかるので、それに関しては別途試算をしてどれが一番やりやすく、得かというのを考えていけたらと思う。

会長	説明いただいた件で、質問に入ろうと思いますが、まず私から質問したいと思います。共同研究を実施された目的をどう設定されたかわかりませんが、生ごみリサイクルをした際に、焼却場での灯油削減量に関しては山口大学と共同研究をしていると説明いただいたので、やはり厨芥を１００％減らしたらどうなるのかという数字をいただかないと、リサイクルの方で欲しかった値がもらえないと思うのですが、ざっくりでいいですが、厨芥を１００％リサイクルに回したらどうなるかというのはわからないですか。
事務局	今すぐは無理ですが、計算はできますので報告します。
会長	例えば「表１」で助燃料使用量が２６１ｋｌで３％減らすだけで２６１ｋｌの４分の１は減るわけですよね。確かに「他の要因あり」の助燃量は相当数あるけれど３％減らすだけで「ごみ質」で使っている助燃量が４分の１減るのかと思ったら１００％リサイクルした方がいいのではないかという気もしてきます。そうすると１００％減らした値は聞かざるをえないと思います。
副会長	生ごみリサイクル実証事業でお聞きしますが、飼料化をしている業者が事業系をどれ位処理しているかという事と、それに家庭系が出た場合、概算になると思いますがその比率がわかればと思います。というのが業者にとって市の生ごみの負荷がどの程度になるのか知りたい。それと生ごみリサイクルで専用の袋を使っており、分別の啓発を行ったら非常に良くなったと聞いたので、どのような啓発を行ったのか資料があればみたいと思います。水切り用袋を使わずに専用袋にしたのか、面倒くさいというアンケート結果もありましたので、何故水切り用袋で収集しなかったのかというのも聞きたいです。
事務局	先程の厨芥を１００％とした助燃量は、１８５ｋｌとなります。
会長	わかりました。ありがとうございました。
事務局	専用のごみ袋ですが全戸配布し、サイズは月水金の燃やせるごみの指定袋の一番小さいのと同じサイズになります。また、置き場に困るということで、生ごみを入れるバケツを全戸配布しております。周知方法のチラシは今日お持ちしておりませんが、どういった形で周知したかと言いますと、多かった意見が生ごみがどこまでかわかりにくいという事だったので、図で、例えば貝殻なら生ごみ、カビの生えたものはリサイクルできないので通常の燃やせるごみと図で表し回覧しました。
副会長	結局、今回は水切り用袋ではなく通常のごみ袋ということで、水分そのままの状態で集めたという事なので、実際は通常より水分量が多めになっていると理解してよろしいですか。
事務局	各家庭でのやり方があると思いますが、そのままごみ袋に入れる方は水分量多め、一旦三角コーナーなどで集めてごみ袋に入れる方は多少なり水切りできていると思われます。もう１つの質問の生ごみリサイクルを行った事業者の事業系ごみと家庭系ごみの割合についてですが、申し訳ないですが把握はできておりません。
副会長	できた飼料の受口は情報がないですが、宇部市内の畜産農家に渡しているとか、受け手の方がニーズがあるとかないとか、何かわかりますか。
事務局	飼料については、長門の養豚場におさめていると聞いております。需要と供給のバランスについては、今は宇部市の家庭系ごみは入っておりませんが、ちょうどよいバランスだというのはお聞きしました。
副会長	それは、長門の養豚場に有償で提供しているのでしょうか

事務局	おそらく有償と思われます。
会長	結局、実証事業をやることによってメリットがあるのかというのをクリアしていきたいと思います。そうすると生ごみリサイクルは、広報をしっかりすれば市民側はちゃんとできるというのがわかりました。これは良い結果だと思います。飼料についても、品質などは問題ない。一方でコストが年２億円かかると。あと電気売払収入などもありますが、それはコストに比べると誤差の範囲で議論するしか仕方ないと。ただ助燃料使用量は削減できるわけですが、これで減らせるコストはいくらになりますか。１００％減らしたら助燃料使用量は２０％位は減らせると思われますが。
事務局	全域で実施した場合の助燃量の削減経費は約８６０万円です。
会長	そうすると、処理費用の２億円と比べると、大きな額ですが誤差の範囲ともいえるわけですよね。コストは２億円かかると、それに対してメリットをどこにみたから生ごみリサイクルについてここで審議しているかという事ですよね。もちろんコストはかかってもやらなければいけないことはあるでしょうが、生ごみリサイクルが達成できたら、２億円に匹敵する重大なメリットがあれば良いと思いますが、どう想定されてこの事業をはじめられたのかお聞きしたい。あるいはこの処理経費２億円というのも全体のごみ処理費用の中では予算の範囲なんだと言われれば、やってもいいと思いますが、生ごみリサイクルをすることの重要性はどの程度のものなのかと。ここは市民の会議なので難しい事を言われてもわからないので、やらなければいけない事なのかどうか、クリアなイメージがないと全体をやろうという雰囲気になっていかないと思うのであえて聞いております。この２億円という処理経費は全体のごみ処理の中で大きいものなのか、誤差の範囲なのかその辺りはいかがですか。
事務局	２億円が誤差の範囲かという事については、決して誤差の範囲の数値ではありません。年間ごみ収集と処理経費で１８億円かかっています。それに塵芥処分の手数料等の収入を除いても、１２億か１３億市費を費やしているところでございますので、それにプラス２億円というのは、当然大きな数字であると認識をさせて頂きます。
会長	そうすると、この事業をはじめられた時には、そういうのもわかっていなかったからとりあえずどうなるのか検討したという事なんですね。
事務局	正直なところ、そういう事になります。
会長	結果として出てきたものを見れば、１２億から更に２億をプラスするかしないかという重大な結果をしなければならないのが生ごみリサイクルだと。これからどうしていくとか、市民に言っておくべき事があるとか、何かありますでしょうか。
委員	この２億円の内訳が載ってないのでわからないのですが、人件費がいくらで給与をこの位払って、ここの経費は削減できるとか努力をすれば、例えば一番多くかかっているのは運搬費だからこうするとか、内訳がわからないので。２億円かかるから辞めようとか、それ以前に削減できるところがないか、考えてみた方が審議しやすいと思います。
事務局	１ｔあたり３万円になるんですが、その内訳については正直出ておりません。ただ、考えるに、収集運搬を市でやりましょうとなれば経費は安くなりますし、選別が市民の皆様の努力によって１００％きれいなものが出るようになれば、選別をするという作業がなくなるので経費が安くなります。割合がどの位になるかというのは、手元の中ではわからない状況にあります。

会長	これは次回聞けるものなのでしょうか。
事務局	次回調べてお答えできますという事が、今ここで言えない状況があります。業者の状況があると思いますので。
会長	調べる努力はして頂いて、次回聞けたらと思います。事業者の話が出ましたが、これは草木リサイクルも関係すると思います。生ごみリサイクルを終わるわけではないですが、草木リサイクルの話にも言及します。草木リサイクルも品質は問題なしで経費増の金額は生ごみリサイクルに比べたら４０万円というような額。ただ、事業者が事業を停止しているからできなくなったという説明だったと思います。そうすると、市内で適切にやってくれる事業者を育成するといった事が行政ではできる対応ではないのか、１つの対策としてですけど。私は別の生ごみ関係の委員会に入っていたことがあって、そこでは今回見せて頂いた生ごみリサイクルはペレット状の飼料にまでしているけど、養豚場であればそこまでしなくても飼料になるとか、他の可能性もあって、もちろん他の可能性があってもできるかできないか、事業者がいるかいないかなので、ここで言う問題かわからないけれども、行政としてはそれを奨励するような仕掛けを考えて頂くと。輸送コストがかかれば意味がないので、市内でそういうことができる可能性があるかどうかを検討して頂きたい。私がここで結論を言ってしまうといけないので、これは個人的な結論ですけれど、私の意見としてすくいあげて欲しいと思います。みなさんの意見としてはいかがでしょうか。
委員	リサイクルをするためだけの事業は反対です。ここにも出ておりますが、大変お金がかかる。市の財政としてプラスになることが少ないと事業報告でよくわかりました。実施した事はすごいと思います。やらないとこういう事がわからないですから。また、一般家庭が生ごみを減少すると非常に良いということがわかりました。一般家庭でなるべく生ごみを出さないようにするという周知徹底が非常に大切であると思います。これは市民側の問題ですが。水切りについてもあまり減量は見込めないとわかりましたけど、切らないよりも切った方が良いと私は思います。私は生ごみなどを出さないようにするために、義務でなく楽しく出さないようにすると心掛けております。水切りも少なくなるわけではないけれど、私は歌を歌いながら水を切ります。生ごみも歌いながら畑に埋めております。私の所は戸建てが多いので庭に埋めてらっしゃる方がたくさんおります。生ごみリサイクルは大変だと思います。難しい事はわかりませんが、ごみ減量化のためには市民が生ごみを減らし水を切るという事ではないでしょうか。
委員	先程の生ごみリサイクルの２億円の件で、内訳が事業者から頂いてないからわからないという事でしたが、実証事業というのは税金を使ってされたと思います。税金を使ってやった事に対する報告が事業者から出ないという事はおかしいと思います。従業員に支払いもしていると思いますし、内訳も結果報告の１つだと思います。費用がかかるものを抑えようという事があるので、是非これは出して頂くようお願いします。
事務局	教えて頂けるよう業者に交渉して参ります。
委員	スポット的に生ごみだけを対象に減少していくというのはパフォーマンスで、極論で簡単にやりたいのであれば、実験した８００世帯に啓発してある程度減りましたよと。そこから市・各自治体に啓発していけば宇部市全体の事業系と家庭系ごみが減るのではないかと思います。

会長	ありがとうございます。前回も議論された通り、市民の意識の問題であることが大きいから、それをいかに啓発していくかという部分が大きいと思います。
委員	生ごみの実証事業報告というのは審議会だけに報告されるものですか。市民というかプレス発表じゃないけれど、ごみの減量化に注目を集められるし、内容は市の方で精査してもらって出すべきものではないかと思いますが。
事務局	まずは審議会に報告して、次のステップと考えておりました。当然、実施自治会には説明に伺い報告書を渡しております。市民にはまだ公表しておりませんが、今後予定しております。
会長	今ここで議論された中で、事務局にすくいあげて頂いて、すぐにでも実践できそうというのは、この結果を用いて市民が何をどれだけしたらいくらとか、灯油何ℓのセーブとなるとか数字を示すことですよね。家庭で１回生ごみを絞ることで１０円の削減になるとか、この結果をわかりやすい形で報告して頂く事がすごく大事と思います。今日の結果だと、ざっくりとまとめて２億円かかりますよねと言われてそれもわかりますが、ここで聞いているだけだとだから何なのかと思います。考えなくてもわかる形にまとめて、市民にまず知らせて頂くというのは必ずやってもらわないといけないと思いますので、次回の審議会にはこういうものを市報に出しましたという報告を聞かして頂いたら我々も議論のしがいがあったと思います。
委員	たしかに２億円というのは大きな額なので、もう少し精査して頂きたいと思いますし、山大の資料にありますように厨芥類を減らすとこれだけ効果があると、その減らす分をどうやって処理していくかというと現時点では段ボールコンポストも大きいと思いますし、それに代わるものとして今の飼料化リサイクルもあります。それと重量を減らし含水率も減らすという複合した場合が見えてこなかったんですが。
事務局	掛け合わせればということになります。５％減らして５％減らしてとなると複合してかかってきて足し算になります。
委員	そうすると、どんどんマイナスになっていく。それと飼料化リサイクルの処理経費の問題を考えるとどうなのかと。もう少し見えるような形で出して頂ければ議論がしやすいかなと思います。市民がこれだけ節減できるならやりましょうというモチベーションを高めるというか、そういう事がないと難しいと思います。
会長	本当は家庭で減らした厨芥の量がわかって、減らしたことによる浮いた灯油代を市民に還元できたらいいと思います。灯油の使用量がこれだけ減りました、税金が浮いたからこんな事ができましたという報告がもし出来たらがんばろうかなという気になるかもしれません。灯油の量の要因は他にもあるから、実現性は難しいかもしれませんが、何か市民にフィードバックがあれば、元気が出るという事だと思います。
委員	生ごみを減らすのに段ボールコンポストと言われますが、それだけが全てではないと思います。私は段ボールコンポストをやっており、良い肥料もできるのでＯＫですが、前回も言いましたが、畑に「ぼかし」を入れると生ごみが早く分解していきます。宇部はなぜ「ぼかし」を売ってないのか不思議に思います。市内のホームセンターはわからないですが阿知須の方は売っております。

会長	この２億円とか灯油１９５kℓとか削減できたら、段ボールコンポストや「ぼかし」を補助するとか、配るとかの費用は楽々出るでしょうね。やられる方も庭がある人に限られている。それを補助とすれば、やってみようという方も少しは出てくると思います。
委員	段ボールコンポストも安くするシステムをしてらっしゃいます。補助もあるし、２個買えば１個おまけなど。ただ、肥料代としては少し高いかなと。以前市から来ていただいて、ごみ減量と段ボールコンポストの話もして頂きましたが、結局４０人位来て段ボールコンポストをやっているのは３人です。
会長	それはもうパフォーマンスの１つであって、そういう事をしているということが大事で、実際にやる行動には繋がらなくても、宇部も何か努力しているんだなという広報にはなります。そういう発信していく種をどんどん作っていって頂きたい。
委員	草木リサイクルですが、実証事業は自治会清掃に限定されていますが、そもそも自治会清掃を対象にという事で始まったものなのでしょうか。それとも、燃やせるごみの日に家庭から出る草木も対象にという事で考えてらっしゃるのでしょうか。
事務局	草と剪定枝をリサイクルできる方法を考えようという事で実証事業をしましたが、業者の処理の過程において、家庭から出されたものは袋に入っており、破袋して出して頂きたいなど条件があった中で、何がそのまま入れられるかという時に自治会清掃は袋に入ってなく野積みにされている箇所が多くありますので、それなら直接搬入して問題ないだろうという事で、それを対象にしようとなった経緯があります。
委員	最終的な目的は、家庭から出る草木も対象ですか。
事務局	最終的にはそこに行きつくものですが、袋に入れずに出して下さいとは今現在市民の方々に申し上げられませんし、置くところもないでしょうから難しいなという所でございます。
委員	各家庭から出る草木ごみはパーセンテージが高かったと思いますが。
事務局	可燃ごみの約１４％が草木ごみになっております。
会長	草木に関しては、何故わざわざ燃やさないといけないのかという感じがする一方、燃やしても大して影響はない程度の量だという側面もあって、草木類はパーソナルに使って有利なら市民が使えばいいけれど、無理して頑張って何かしてもあんまりプラスにはならないという位置付けなんでしょうか。自分の所でとれた枝などで煮炊きをしたら自分は得になるだろうけど、それをごみに出したからといって市のプラスにならない。コストとか考えたらあまり頑張っても仕方ないという答えにしかならない。
委員	現状コストがかかってという事でしたが、競争原理が働いて段々下がっていくというのがあります。例えば、草木にしても今、リサイクル業者はあまりおりませんが、どんどん増えていって１ｋｇ１０円とか値段がどんどん下がっていく。生ごみにしても、１ｋｇ３０円が２０円、１０円になっていく。それを考えたら、頑張って今はつらいかもしれませんが、やる意味はあるのかなと思います。今、市の焼却場が１３年位経っているんですかね、もう数年経って逆転すればリサイクルするのが当たり前、焼くのは昔の話と、そういう風になっていくのが一番理想かなと思います。
委員	今の現状はリサイクルすれば焼却の倍の金額がかかってしまいます。事業系のごみを集めていますが、業者に協力して欲しいと言っても、今までより高いお金で払うというのは無理があります。

会長	処理費用に係るスケールメリットとかは、私自身あまり詳しくないですが、昨日卒論発表会があって、市バスのペイする人口は５０万人位いれば十分ペイしているが、２０万人位の宇部市などは固定しないといけなくて、たくさん集まったらペイしてくるんじゃないかと、こういう報告もあります。広島とかに持って行けば処理費用は安くなるけど輸送コストがかかる。山口県内でいくつかまとまったら何とかならないかという期待はできないけど検討してもらう可能性は否定できないと思います。山口県は小さい町が分散しているから、輸送の面では不利な土地柄もあるので簡単ではないと思いますが、駄目かどうかわかるだけでもこの疑問は解決するから検討が可能ならお願いしたい。
委員	宇部市はリサイクル業者は少ないですが、１ｔ３万円という値段だと思います。県内は下関市がだいぶん安いです。色々な業者がいるというのもありますし、流通ルートの確保もあり、先程も長門でやってらっしゃるという話もありました。宇部市の１ｔ３万円もどんどん下がっていく可能性は十分あると思います。競争原理だけでなく自治体が自主的にリサイクルの機器設置という可能性もあると思うので、今は大変かもしれませんがゆくゆくは繋がっていくのかなと思います。
会長	県の会議ならやり易かったと思いますが、市でこの話を聞いて何か行動とれますか。
事務局	広域処理という話になると思いますが、一応、廃掃法では宇部市で出た廃棄物は宇部市で処理すると法に明記されております。その関係上、草木でも隣の山口市には処理業者がいらっしゃいます。しかしながら宇部市で処理する業者はいないのかと。リサイクル処理はないけれど焼却場はあるわけで、そうなると焼却場で処理するのが原則という形になります。そういう法律のしがらみがありまして、なかなか他市に持ち込んで処理するのができない状況ではあります。そのあたりを一つずつクリアしながら他に良い方法はないか考えていきたいと思います。
会長	よその市に持ち込んだらメリットがあるかどうかが大事で、メリットがあるなら県にメリットがあるから国に働きかけてくれと言っていかないと何も変わらない訳で、この場は意見を出す場と思い言っていますが、出来る方向があれば探っていただきたい。山口市に持って行っても輸送費でメリットがなければやる必要はない。メリットがあるかどうかが第一です。
委員	今言われた山口市のリサイクルというのは草木リサイクル実証事業と同じような形でのチップ化にしてバイオマス燃料にしているのでしょうか。
事務局	確か、堆肥化だったと思います。
委員	私の知り合いの専業農家の方は草木を自分の家にある小さな裁断機という物ですか、あれで細かくしすべてを自分の農地にまいて全部処理されています。この実証事業はものすごくコストがかかりそうなので、もっとコストがかからない方法でやることはできないでしょうか。
事務局	そういった事を含めて今後考えていかないといけないと思います。来年度、平成２７年度が「一般廃棄物処理基本計画」のちょうど中間点にあたりまして、それを見直すという作業が控えております。その中で今後の宇部市の取組み、また、色々な分別方法等含めて今の計画自体見直しというのを考えておりますので皆様の意見を聞きながら考えていけたらと思います。

副会長	山口県バイオマスプランというのが昔ありまして今はどうなっているのか不勉強で申し訳ないですが、確か全国的にバイオマスプランを作成するように指導してたと、県の動きなのでご存じの方がいらっしゃればと思ったんですが、主に森林資源を活用しようというのがねらいだと思います。
委員	阿知須に業者がいたと思います。昔は受け取ってもらっていたが山口市とか色々と持ち込み、宇部市は受け付けてくれなくなったと思います。
会長	先程おっしゃったコストがかからない方法があるのではないかというのも、それはむしろ市民側から知恵を出すのが大事じゃないかと思います。市の方も知っていれば行っていると思うので、広報か何かにアイデアがあれば聞かして欲しいと問うのではないかと思います。草木ごみがあるけれど有効活用したい人には無償で送りますとか、そういう市民の知恵を活用する必要があるのではないでしょうか。
事務局	事例の紹介ですが、草木について焼却するのではなく、なんとかリサイクルできないかという事で、ときわ公園を次世代エネルギーパークとし、太陽光発電などしている中で園内の剪定枝・枯葉を集めて堆肥化できないか、青年の家の空き地で堆肥を作る施設も作って色々試みております。また、ボランティアの力にもよりますがチップ化して、ときわ公園内にまいたりと、ときわ公園内の草木は、ときわ公園の中で循環させようという取組みをしております。山口県全体のバイオマスの活用というお話がでましたが、今、県が積極的に取組んでおりますのは森林資源、特に間伐材とかを活用しようという事で県の森林組合連合会ですか、そこと一緒になって岩国の方に森林資源を集めてペレットをつくる工場を作っており、その近くにはペレットを活用する発電所も作っております。宇部市でも宇部の鉄鋼組合にお願いをして宇部のものづくりの技術を集めていただいて宇部発のペレットストーブをこの度つくっていただいて、山口県内のペレットをつかったペレットストーブで山口県の森林を回していこうという取組みもはじめたところでございます。できるだけ地域の資源エネルギーを地域で回して地域のお金をその地域の方にお支払してお金も循環していくような仕組みもつくっていきたいなと色々試しておりますが、お金がかかることなので是非、委員の皆様の知恵をお借りしたいと思っております。
委員	山大との共同研究で出された資料の中で表１「ごみ質」「他の要因あり」で「他の要因あり」はメンテナンスと言われましたが、これが６７％を占め非常に大きいですが、生ごみを減らした努力によってこのメンテナンスも減るのであれば、随分と違ってくると思うのですが。
事務局	「他の要因あり」というのは、炉内にスラグというようなガラス製のものが付着したりと機械的な方で必要な燃料になります。市民の皆様の出される生ごみの水分が減って燃焼状態が良くなれば、ある程度は減少すると思いますが、市民の皆様の努力によって単に「他の要因あり」の方が減るものでもないと考えております。
委員	単純にそういう努力をしてもなかなか減らないというのはわかりますが、そもそも市民の皆さんがしっかり水切りをしましょうということで水を切ってごみを出して頂く、そういう周知啓発をしていただく中で、市民の方は努力をしてごみを出したけれど、焼却場で事業系ごみと家庭系ごみと草木ごみがあって分けられないと。分けられないので、事業系の方に何をお願いするか、市民の方に何をお願いするか、終着した先できち

	んと分ければ、努力して更に努力していただければこうなりますというのが見えますよね。見えれば、市民の方も事業所さんも努力をされる可能性があるかもしれません。一緒なのでどこに何を言うかは難しいと思います。そこを分ける方法を今後考えていくとか、やはり市民と事業の方は出されるごみが違うと思います。先程言われましたが、事業者にあまり強いことは言われないと。これは致し方ないと思います。事業をされてる方が本当に意識を変えていって下されば全体として助燃費用も減っていくという事になりますよね。いろんなリサイクルをして道筋を立てるけども、法律があってなかなかうまくいかないので、助燃代が少なくなるような努力をみんなでしなければいけないと私は感じました。
事務局	事業系ごみが前回の審議会で報告しました通り、徐々に増えつつあり事業者の方へ啓発という意味で現在取り組んでおりますのは、条例事項でもあります減量化計画の提出ということで一定規模の事業者に提出をお願いしております。しかしながら、そこからどうなるかというのは、事務の方は進んでおりません。今後こういう事を含めまして、事業者への啓発というのは当然必要であると思っております。全国チェーン展開されておられます店舗、大手のスーパーなどは、ある程度環境に配慮する取組みとして色々なリサイクルその他の活動をされておられますが、地元の事業所はなかなかそういった所までできていないというのが顕著に出ております。最近増えておりますのが高齢者施設などからでる厨芥類やオムツであるとか、こういった処理の方法については、個別に訪問しながら対応等していかないといけないのかなと話をしている最中でして、今すぐに減るというのは難しいかもしれませんが、徐々に普及していくように努力はしていきたいと思っております。
会長	今日議論した中で、行政としてすぐにやっていただけることは出てきたと思います。特に全体を通して言われてきたことは、２件の実証事業と共同研究の結果をできるだけ市民にわかりやすい形で早く広報して頂くと。そして市民が自分達のやっていることの効果がどういう風に出ているのかというのが簡単にわかるような情報を公開して頂くという事を是非早くやって頂きたいというのが一番大きな事だったと思います。我々自身のやる気を出す為にも、次回はこの審議に基づいてこういうことをやりましたという事を報告頂ければ大変ありがたいかなと思います。本日の議題はこれで終了しようと思います。その他に事務局から何かありますでしょうか。
事務局	来年度「一般廃棄物処理基本計画」について、現計画は平成２２年度から３３年度の計画期間となっておりまして、平成２７年度が中間目標年度ということになります。来年度中に後期の平成３３年度までの計画を見直すという事になります。現在の計画におけます最終目標数値は、ごみの排出量一人一日当たり８４０ｇとしております。しかしながら、平成２５年度の数値は一人一日当たり１，０６７ｇとかなりひらきがございます。こういったものを再度検討しまして、それに向かった色々な取組みあるいは収集運搬の方法、処理の方法、分別の方法など再度検討させて頂きまして、新しい見直した計画にしていきたいと思います。平成２７年度は審議会のご意見を頂くということになりますので、４回くらいは開催できたらと思います。また改定作業の中でワークショップの実施等も考えておりますので、その折には是非委員の皆様もご協力をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

会長	本日の議題はこれで終了させて頂きたいと思います。事務局の方に進行をお返しします。
事務局	どうもありがとうございました。皆様お疲れ様でした。